

各大学の特色を生かしつつ、
質の高い獣医学教育を実施するための
共同教育体制

○玉田尋通（大阪府大）、○池田正浩（宮崎大）、九郎丸正道（東京大）

宮崎大学と大阪府立大学の 獣医学教育連携について

玉田尋通(大阪府立大学)

大阪府立大学生命環境科学域と宮崎大学農学部との間 における獣医学教育の連携に関する協定書

目的

獣医学教育におけるそれぞれの長所をお互いに付与し、獣医学教育の充実を図る。

(平成24年12月17日)



大阪科学・大学記者クラブへの報道提供資料(抜粋)

動物性食品の安定供給には産業動物の生産・流通・消費過程が重要です。宮崎県は産業動物の主要な生産地域であり、大阪府は流通・消費の一大拠点です。産業動物の生産現場では家畜伝染病等に対する対策が必須であり、流通・消費現場では食中毒発生等に対する対策を欠くことができません。産業動物の生産現場を近隣に擁する宮崎大学農学部では産業動物関連の獣医学教育について、一方、食品の流通・消費拠点に位置する大阪府立大学生命環境科学域では公衆衛生関連の獣医学教育について、実学の教育資源を蓄積してきました。両者は教育連携を実施し、特徴ある獣医学教育を相互に提供することにより、現場の最前線で活躍できる高度な実践力を備えた獣医師を育成することを目指します。

大阪府立大学生命環境科学域
獣医学類 平成24・25年度履修要項

大阪府立大学獣医学類（平成24・25年度入学生）

獣医学類における卒業に必要な単位（要卒単位）

科 目			必要単位数	
共通教育科目	導入科目	初年次ゼミナール	2 単位	
	教養科目		6 単位	
	基盤科目	外国語科目（初修外国語）	-	10 単位
		健康・スポーツ科学科目	-	
		外国語科目（英語）	1 2 単位	
		情報基礎科目	2 単位	
	自由選択枠 ※注1			4 単位
専門基礎科目	理系基礎科目	必修	8 単位	
		選択	2 単位	
専門科目		必修	1 6 9 単位	
		選択	9 単位	
	専門科目小計		※注3	
合 計 ※注4			2 1 8 単位	

創薬-薬理・毒性関係、産業動物関係および公衆衛生関係の職域における専門技術者、研究者等を目指す学生に対して修得することを推奨する科目群(選択科目)

職域	第1群 (基本科目)	第2群 (応用科目)	第3群 (実技科目)
創薬-薬理・毒性関係	創薬学概論 疾患モデル動物学 動物行動解析学	薬物動態・代謝解析学 毒性病理学 創薬学概論演習	毒性病理学実習 創薬フィージビリティ研究実習
産業動物関係(臨床、公務員、畜産)	獣医感染制御学 獣医環境科学 動物行動解析学	獣医環境感染学 獣医環境制御管理学 産業動物病性鑑定特論 産業動物生産獣医療	獣医感染制御学実習 獣医環境科学実習 産業動物病性鑑定実習 大動物野外診療実習
公衆衛生関係(公務員)	獣医環境科学 食品循環科学 獣医感染制御学	獣医環境制御管理学 食品安全管理学 食品流通安全管理学演習	獣医環境科学実習
			学外特別実習

※卒業には、第1群から4単位、第2群から3単位、第3群から2単位の合計9単位を修得する必要がある。

専門科目（選択）

第1群（基本科目）

- 創薬学概論
- 疾患モデル動物学
- 動物行動解析学
- 獣医感染制御学
- 獣医環境科学
- 食品循環科学

第2群（応用科目）

- 薬物動態・代謝解析学
- 毒性病理学
- 創薬学概論演習
- 獣医環境感染学
- 獣医環境制御管理学
- 産業動物病性鑑定特論
- 産業動物生産獣医療
- 食品安全管理学
- 食品流通安全管理学演習

第3群（実技科目）

- 毒性病理学実習
- 創薬フュージビリティ研究実習
- 獣医感染制御学実習
- 獣医環境科学実習
- 産業動物病性鑑定実習
- 大動物野外診療実習
- 学外特別実習（インターンシップ）

獣医感染制御学

感染症の発生及び拡大を防止するために必要な理論や最新の知識を習得するために、感染症の診断法、治療法及び予防法について体系的に理解する能力を培う。

感染症の成立と伝播を支える病原体・環境・宿主感受性および生体防御機能の各要素を把握し、これらの要素を統合した科学的見地から病原体の感染防止策や拡散防止策に必要な理論や原理についての講義を行う。

獣医環境制御管理学

環境汚染・環境破壊に限らず人の生活基盤や生活交流の変化が人類および生物界にもたらす環境影響を踏まえて、環境の制御・管理のあり方を理解・習得することを授業目標とする講義科目である。環境変化の生物への影響(種絶滅と環境因子)、生物保全(生物保全と傷病野生動物の人為的傷病発生機構)、食の安全確保(食品管理・食品汚染)、感染の予防と制御(感染への環境影響と感染制御への環境管理)、家畜の衛生(生産性への環境影響)について環境影響を検証し、各領域での環境制御を介したあり方を学習する。

産業動物病性鑑定特論

産業動物の病性鑑定において用いられている微生物学的, 病理学的, 生化学的検査の原理および実際の検査方法の習得を培う。家畜の各伝染病について家畜伝染病予防法や防疫指針に基づいた病原学的検査法, 免疫学的検査法, 病理学的検査法の原理および診断基準についての講義を行う。

産業動物生産獣医療

家畜の群全体を考慮してその健康の維持，生産性の向上をめざす生産獣医療の実践的な重要事項を習得させる。飼養管理の現場における実践の積み重ねのなかから，産業動物獣医師が備えておく必要のある事項，すなわち，乳牛・肉牛の哺育・育成プログラム，肉用牛の肥育管理プログラム，乳牛・肉牛の繁殖管理プログラム，乳牛・肉牛の飼料設計プログラムならびに代謝プロファイルテストと生産獣医療システムの実践と課題などを講述する。

獣医感染制御学実習

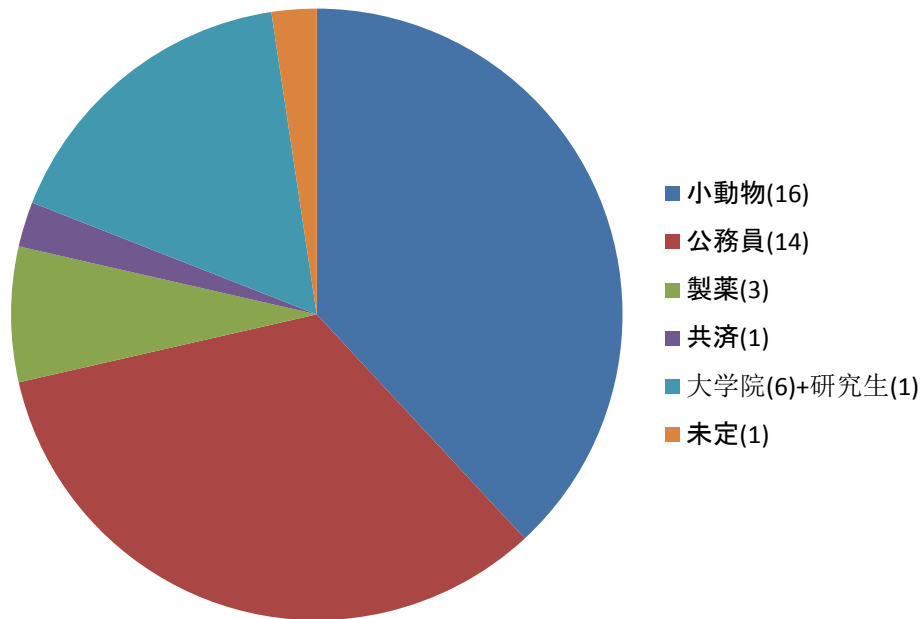
感染防止策や拡散防止策の立案・実践を体験することを目的とする実習科目である。院内感染や畜舎での感染を想定し、消毒剤の選択方法や評価法・使用法、ワクチネーション、抗菌剤の使用法、薬剤耐性菌の検査方法等の手技を習得させる。

産業動物病性鑑定実習

産業動物病性鑑定特論で学んだ基礎知識を基に、患畜や各種検体を用いて**病性鑑定を実践**できる能力を培う。病原体の分離・同定検査，病理解剖，病理組織検査，生化学検査などを実際に経験し，家畜疾病の確定診断に必要な基礎技術と応用方法の実習を行う。

卒業生の進路

平成23年度卒業生



平成24年度卒業生

